

第3回銚子市外川漁港海業推進地域協議会 会議概要

- 1 会議名 銚子市外川漁港海業推進地域協議会
- 2 開催日等 令和8年7月9日（木） 午後3時00分～4時30分
- 3 概要
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ

銚子市長	事業計画の策定支援事業者は、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」という。）に決定した。海業推進を通じて、外川に多くの人を誘客し、外川の魅力を知ってもらうことで、漁業者の所得向上や漁業の発展につなげていくためには、経営力のある事業者の進出が重要である。今後は関係機関と連携し、海業の成功に向けて取り組んでいく。
信田県議会議員	事業計画策定支援事業者として MURC が決定したことは、大変心強く感じている。銚子の漁業・水産業を取り巻く状況は依然として厳しいが、地域のポテンシャルを活かしながら海業を推進し、漁業・水産業の活性化および海業のモデルケースとなることを目指し、県としても引き続き尽力していきたい。

(3) 議題

- ①銚子市外川漁港海業推進事業計画策定支援等業務に係る公募型プロポーザルの結果報告について
- ②作業部会について
- ③今後のスケジュールについて
- ④銚子市外川漁港海業推進事業計画について
- ⑤その他

4 協議会内容

- (1) 議題①銚子市外川漁港海業推進事業計画策定支援等業務に係る公募型プロポーザルの結果報告について
- ②作業部会について

事務局	先般、銚子市外川漁港海業推進事業計画策定支援等業務に係る公募型プロポーザルを実施し、3事業者から参加申し込みがあった。
-----	---

事務局	企画提案審査を経て、「三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社」を契約候補者として選定し、契約の締結となった。今後は、本協議会および作業部会の運営支援等、皆様と共に事業推進にご尽力いただく。 ●<u>議題①について、異議なしのため承認とする。</u> 事業計画に掲げるビジョンを具体的な事業として形にしていくためには、より詳細な検討と、多様な専門性を持つ方々の知見が必要不可欠となることから、本協議会の下に、実務的な検討を担う「作業部会」を設置する。 作業部会について、本協議会設置要綱第8条第3項には「部会の部会長は、会長が選任する」と規定されており、会長のご意見を踏まえ、作業部会長を銚子市漁業協同組合の辻参事とする案を委員に諮ったところ、異議なく承認された。 作業部会の構成員およびその他関係者について、本協議会設置要綱第8条第2項によると、作業部会の構成員は、「協議会を構成する関係機関等の実務担当者」及び「会長が必要と認める者」となっている。作業部会を、各関係機関の皆様から実務的なご意見や専門知識をいただく場として機能させるため、構成員として、本協議会を構成する各関係機関における、業務内容や専門性を考慮した実務担当者や、海業推進に積極的にご協力いただける方の選任を依頼する。加えて、作業部会の議論をより深め、多角的な視点を取り入れるため、特定の専門知識を持つ方や、海業の実施に直接関わる可能性のある事業者、地域のキーパーソンなど、本協議会に参加している関係機関以外の方々についてもご紹介いただくよう依頼する。 ●<u>議題②について、異議なしのため承認とする。</u> ●<u>作業部会長 銚子市漁業協同組合 辻 勝美 参事を選任。</u>
-----	--

(2) 議題③今後のスケジュールについて

事務局	今後のスケジュールについて、MURC より資料1をもとに、今後のスケジュールを説明。
委員	先進事例調査では、海業を展開している地域の中で、参考になる地域、先進的な地域の情報を教えていただきたい。
事務局	外川漁港や外川地区の実情や事業展開の方向性をヒアリング等で調査してから、諸条件を規定し、他地域の調査に移ることを想定している。まずは外川地区のことについて皆様より教えていただきたい。
委員	先進事例の調査のみならず、外川漁港についても、銚子つりきんめをつくりあげてきた生産者を中心にヒアリング調査を実施し、漁

委員	業の歴史や実態について理解を深めるとともに、助言を得るよう努めてほしい。
会長	市内の他の集客施設が十分な効果を発揮できていない要因についても調査しつつ、銚子市および外川地区に観光客を誘導するための方策を検討していただきたい。独自性のある事業を展開しなければ、遠方から観光客を呼び込むことは難しいと考える。交通事情や駐車場・駐輪場の数にも制約があることも踏まえ、事業を検討いただきたい。
県漁港課	今回策定される事業計画を踏まえた活用推進計画を県が策定したとしても、事業主体となり得る事業者の応募がなければ、計画策定や事業者の公募を実施する意味がなくなる。サウンディング調査等を通じて、応募事業者の見込みについても把握してもらいたい。

(3) 議題④銚子市外川漁港海業推進事業計画について

事務局	銚子市外川漁港海業推進事業計画について、MURC より資料 1、資料 2 をもとに、銚子市外川漁港海業推進事業計画及び作業部会について説明。 事業計画の章構成とこれから実施する調査との対応関係は資料の通り。特に、第 1 回の作業部会では外川漁港の水産業のポテンシャルおよび課題、課題解決に向けた海業の取組方向性、ならびにその方向性を具現化するための海業の事業について、実施・連携方法を含めて具体的に議論していただきたい。その議論を踏まえてサウンディング調査を実施し、調査結果をもとに第 2 回作業部会において、事業者から提起された事業参入にあたっての課題や条件への対応方法、実施体制について議論していただきたい。 確実に活用可能な場所は、製氷施設跡地および蓄養施設跡地の 2 地点と伺っており、議論のたたき台として各地点における機能案を資料に記載している。外川漁港で①皆様が実施してみたいことや②皆様が協力できることについて、現時点でアイデアがあればご意見をいただきたい。また、文献調査で得られた情報をもとに、現状想定される地域の事業者の候補を資料に掲載しているが、③事業主体となり得る方や、意欲・関心があると考えられる地域の個人・企業・団体等がいれば推薦いただきたい。
委員	観光客から近くでキンメダイを食べられる場所がないかと尋ねられることがあるが、外川地区周辺にそのような場所はないため、キンメダイを提供できる場所があってもよい。こうした声を受けて、「かあちゃん食堂」としてキンメダイを振る舞ったこともあったが、1、2 回で終了してしまった経緯もある。外川の漁業者の多くは、キンメダイを前面に押し出した事業を展開したいという想いを抱いて

	いると考える。 また、過去の洋上風力発電の導入に向けた動きの中で、ワカメやコンブの育成試験を行うなど、漁協では様々な取組がなされている。さらに、資料に記載のあるラボのような、キンメダイ漁業や海藻に関する体験や学習ができる場所についても、アイデアとして興味深い。
--	--

委員	海業の主旨の中に、漁業者の所得向上がある。どのような事業を行えば漁業者の所得向上につながられるのか、MURC の考えを聞かせてほしい。
事務局	いくつか方向性があると思う。1つは、直販や飲食機能を有する施設を設置し、外川で獲れた魚を現地でも販売することである。しかし、実際に所得向上につながるかどうかについては、出荷量と現地で消費が見込まれる量を踏まえるなど、事業規模を考慮して検討する必要がある。他には、「外川」の名称を冠する施設の整備や商品開発を行うなどにより、さらなるブランディングを図り、水産物の売上向上を目指すという方向性も考えられる。加えて、資料に記載のラボ等による事業の多角化によって所得向上を図ることも可能であると考えられる。今後、実際に外川の漁業者にお話を伺いながら、漁業者の所得向上に向けた当地域での最適な方向性について検討していきたいと考える。
委員	漁港のみならず、銚子全体の活性化につながるような方向性で計画策定を進めていただきたい。

委員	2点質問がある。1点目は、海業に資する施設の機能案として温浴・サウナ施設が資料に記載されているが、サウナ施設は実際にニーズやポテンシャルがあるのかについて、2点目は、洋上風力の視察受け入れを行っている「C-COWS」に対してもヒアリング調査を実施してもらえるかについて、お聞きしたい。
事務局	温浴・サウナ施設は、実際のニーズや事業性は改めて確認する必要があるが、仮にサウナ施設であれば、温泉を掘るよりも手軽に整備できることに加え、漁業体験を実施する場合には朝早い時間帯となることが想定される中で、公共交通の待ち時間や休憩時間に過ごしてもらおう場として活用でき、地域への一定時間の滞在にもつながると考え、提案したものである。当案にこだわることなく、今後調査・検討を進める。「C-COWS」については、全国的にも先進的な外川漁協への視察受け入れ事業を海業の一案として検討する上でも、お話を伺うことを検討したい。
会長	地元の千葉科学大学の学生や教職員に作業部会に出席してもらうことも良いかと考える。

委員	市とも協働しながら、事業が単発で終わることなく、地域の他のエリアとも連携し、地域全体で効果が得られるように海業を推進していただきたい。また、以前は小学校の課外学習で水族館に行くことがあったが、水族館がなくなってから市に訪問する機会がないという市外からの声もある。釣りきんめの資源保護を行っている外川漁業の学習ができる施設を計画するなど、市外学校の課外活動を受け入れる場を設けることも良いのではないかと考える。
銚子市長	隣接している名洗港の港湾地区においても、令和6年に策定された銚子市南海岸エリアビジョンに基づき、県と市の共催で千葉銀行本店にてサウンディング調査を実施した。4事業者が参加し、温浴施設等の提案があったことから、今後もさらなる対話を進めていく方向である。また、犬岩地区でも緑地利用の提案があった。外川での事業を構想する上でも隣接地域の取組と連動させながら、地域全体で賑わい創出の効果が高まるよう取り組んでいきたいと考える。

委員	ワカメ・コンブの養殖や洋上風力との連携、漁業共生等の体験型プログラムについては漁協内部でも検討しており、学習の機会を創出することで子供たちに来てもらえると良い。また、資料に記載されているように、漁獲物の販売や飲食施設も必要であると考えている。ただし、蓄養施設跡地は2階の高さから富士山が眺望でき、将来的に洋上風力の設置も見込まれることから、製氷施設跡地よりも景観が良いと考えられ、導入施設イメージは逆にしてもらって、蓄養施設跡地に体験・飲食・交流機能を設ける方が良いのではないかと。詳細については作業部会で議論したい。
----	---

委員	外川においては、地域側が希望する施設・事業と観光客のニーズに差がある可能性がある。その点も踏まえ、一時的な効果にとどまらず、持続的な集客が達成できる計画を検討していただきたい。
県漁港課	漁港用地は制度上最大 30 年間貸すことができるという点も踏まえ、持続的な効果が期待できる計画を検討していただきたい。

県水産課	4点質問・意見がある。1点目は、作業部会の体制について、特に若手は大人数かつ年齢層が高い人たちが集まる場では発言しづらく、議論しやすい環境が望ましいと考えるため、小規模な人数で行うべきではないか。2点目は、作業部会の回数について、1回目はアイデア出し、2回目で収束させていくことを考えると、実質的にアイデアを出しながら議論を行うのは1回だけとなり、2回のみで事業を具現化し、事業計画の策定に進むのは難しいのではないかと。3点目は、作業部会への出席を依頼する想定事業者について、加工施設や養殖関係の事業者等を漁協の方から MURC へ紹介いただけると良い。4点目は漁協の方にお伺いしたいが、漁業者の所得向上を目指して、魚を捕る漁業者を増やす、または漁獲量を増やすことが重
------	--

	要であると考えているが、漁獲量を増やしていく観点の中で、養殖についてどう思うか。
委員	4点目の養殖については、一度、生きたキンメダイを、サンマのふ化に成功した実績のある「アクアマリンふくしま」に持ち込んだことがあるが、深海魚であり環境に適応できなかったためか、失敗に終わった。そのため、キンメダイの養殖は不可能であると考えている。一方で、他の魚種については、伊豆でクロムツ等のふ化に成功している事例もある。キンメダイの生態については未解明な部分も多いが、稚魚の放流等が将来的に可能となれば資源確保にもつながると考えるため、研究できる施設を設置することも一案として考えられるだろう。
委員	コンブやワカメであれば養殖は可能である。一方、キンメダイについては、いかに少なくとるかという資源管理が重要であり、獲りすぎれば資源が減少してしまうため、漁獲量自体を増やすことは考えていない。
委員	他には、外川ではイセエビが漁獲できる。イセエビの取り扱いも将来的には検討していきたい。
会長	千葉県鋸南町勝山漁協が東京海洋大学発認定ベンチャー企業（株式会社さかなドリーム）と連携して養殖事業に取り組んでいる話も伺っている。
委員	水産資源が枯渇している中で、養殖事業は重要であると考えており、外川地区に適した養殖の在り方について今後も検討していきたい。また、今後様々な事業のアイデアが出てくると思われるが、海業の本来の目的から逸脱しないよう、生産者の意向を聞き、骨格を作ってもらった上で、県や市と十分に連携して進めてもらいたい。
会長	2点目の作業部会の回数については、場合によってはオンラインで実施することで回数を増やすことも一案ではないか。また、ジャストアイデアではあるが、地元の銚子経済新聞などとも連携し、進捗を発信しながら計画策定事業を進めることで、地域の認知度も高まり、良いのではないかと考える。

委員	海業はキンメダイを中心に検討を進めていただけると良いが、キンメダイ漁等の漁業体験を一つのプログラムとして検討する上でも、外川での漁業の歴史や漁獲方法、開発中のキンメダイ漁のVR体験について、協議会とは別の時間でMURCにぜひ知ってもらいたい。また、現在月に1回、5～6人ほどにキンメダイ漁について説明を行っているが、より良い説明の方法や集客の方法について教えてもらえるとありがたい。
----	--

委員	外川の漁業者は年間 90 日しか水揚げを実施しておらず、いつ訪れても生のキンメダイがあるというわけではない。しかし、冷凍技術も活用して、観光客には現地で美味しいキンメダイを食べてもらいたいと考えている。 外川は朝日が美しいが、朝 4 時や 5 時に来ても店舗が開いていない。農家が道の駅でおにぎりや赤飯、おはぎなどを提供しているように、同様のことを海業として実施することはできないか。例えば、味噌汁やキンメダイの煮魚、焼き魚、炊き込みご飯などの提供が考えられる。希少な生のキンメダイについては付加価値を付けて販売することもできると考えられる。 また、女性の雇用の方が少ない中で、キンメダイを活用した飲食の提供や加工など、短時間でも働ける業務を取り入れた海業のスタイルは、雇用の提供につながり、結果的に外川漁港全体の収入向上にも寄与するのではないか。 これらの取組に付随して、ヒラメ、タイ、イセエビといった他の魚種の取り入れや養殖事業等を行うことも考えられるが、キンメダイを中心に据える方針はぶれずに進めてほしい。
----	--

(4) その他

会長	意見・質問等はないため、議事を終了とした。
----	-----------------------

以上